

【26】平成30年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース  (英文名)</p>	<p>外科学(消化器・一般外科)  (Gastroenterological and General Surgery)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>大坪毅人</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>外科学は治療手段として手術手技が中心となる臨床医学分野であるが、特に消化器一般外科は、手術手技のみならず、術前管理として各種の高度診断技術とその理解が要求され、また、術後早期、術後長期の患者管理において多くの知識を必要とする分野である。</p> <p>消化器一般外科大学院として、具体的には、3ヶ月間3回の学習期間があり、上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科を中心に、手術手技実習に多くの学習時間を割り当てるとともに、術前画像診断学、消化器一般外科解剖学クリニカルラーニング、手術手技ビデオ研修などを通して総合的に消化器一般外科臨床学を研修する。また、疼痛緩和ケア、surgical site infection、nutrition supportなどの選択科目から消化器一般外科患者管理の臨床研修を行う。</p> <p>また、消化器一般外科は癌研究を中心に広くbasic researchが行われている分野であるが、消化器一般外科大学院のbasic researchの特徴として、肝外科的侵襲における肝細胞機能保護、大腸癌遺伝子とプロテオミクス研究など、基礎リサーチのカリキュラムが選択可能で、ベッドフリー期間が設けられている。基礎研究、あるいは臨床研究により学位論文作成と学位取得が可能である。</p> <p>また、外科専門医取得を目標に、大学院在学中に、必要な臨床経験を積むことができるようカリキュラムが用意されている。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肝虚血再灌流の基礎</li> <li>2. 大腸癌遺伝子とプロテオミクス研究</li> <li>3. 抗癌剤副作用における遺伝子多型の研究</li> <li>4. 肝細胞障害のプロテオミクス解析</li> <li>5. オピオイドの作用に及ぼすの物質の臨床基礎研究</li> </ol>
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>講義ごとに指示をする。</p>

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード		専攻分野	外科学(消化器・一般外科)	
講義題目	消化器・一般外科クリニカルラーニング I		必修/選択	必修
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	2単位(3ヶ月・7、8、9月)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	主に消化器一般外科の症例を検討し、画像診断、治療方針、手術等について学習する。			
講義計画	各種消化器一般外科の臨床画像診断、治療法を解説する。			
達成目標	各種消化器一般外科疾患に関して、特に消化器悪性疾患の診療ガイドラインに沿ったEBMを習熟する。			
教科書・参考書	新臨床外科学(医学書院、2006、第4版)			
準備学習(予習・復習・時間)	予習:参考資料に目を通しておく。復習:配布資料を使い各自復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓢ)	後期(回)	内 容
				(出席Ⓢ)
1	消化器一般外科診断学総論		1	
2	腹壁外科(1)		2	
3	腹壁外科(2)		3	
4	上部消化管疾患診断学総論		4	
5	上部消化管疾患診断学各論(1)		5	
6	上部消化管疾患診断学各論(2)		6	
7	食道癌外科治療学(1)		7	
8	食道癌外科治療学(2)		8	
9	胃癌外科治療学各論(1)		9	
10	胃癌外科治療学各論(2)		10	
11	消化器一般外科診断学・治療学総括		11	
12	試験、評価		12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認

Ⓢ

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード		専攻分野	外科学(消化器・一般外科)	
講義題目	消化器・一般外科クリニカルラーニングⅡ		必修/選択	必修
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	2単位(3ヶ月・10、11、12月)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	主に消化器一般外科の症例を検討し、画像診断、治療方針、手術等について学習する。			
講義計画	各種消化器一般外科の臨床画像診断、治療法を解説する。			
達成目標	各種消化器一般外科疾患に関して、特に消化器悪性疾患の診療ガイドラインに沿ったEBMを習熟する。			
教科書・参考書	新臨床外科学(医学書院、2006、第4版)			
準備学習(予習・復習・時間)	予習:参考資料に目を通しておく。復習:配布資料を使い各自復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終試験			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容
				(出席Ⓞ)
1	消化管外科診断学総論		1	
2	下部消化管疾患診断学総論		2	
3	下部消化管疾患診断学各論(1)		3	
4	下部消化管疾患診断学各論(2)		4	
5	下部消化管疾患外科治療学総論		5	
6	下部消化管疾患外科治療学(1)		6	
7	下部消化管疾患外科治療学(2)		7	
8	後腹膜臓器疾患診断学総論		8	
9	後腹膜臓器疾患診断学各論		9	
10	後腹膜臓器疾患外科治療学各論		10	
11	脾疾患治療学		11	
12	試験、評価		12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認



学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード		専攻分野	外科学(消化器・一般外科)		
講義題目	消化器・一般外科クリニカルラーニングⅢ		必修/選択	必修	
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213		
単位数	2単位(3ヶ月・1、2、3月)	履修年次	1年・2年		
テーマと目的	主に消化器一般外科の症例を検討し、画像診断、治療方針、手術等について学習する。				
講義計画	各種消化器一般外科の臨床画像診断、治療法を解説する。				
達成目標	各種消化器一般外科疾患に関して、特に消化器悪性疾患の診療ガイドラインに沿ったEBMを習熟する。				
教科書・参考書	新臨床外科学(医学書院、2006、第4版)				
準備学習(予習・復習・時間)	予習:参考資料に目を通しておく。復習:配布資料を使い各自復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓢ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓢ)
1	肝疾患診断学(1)		1		
2	肝疾患診断学(2)		2		
3	肝疾患外科治療学(1)		3		
4	肝疾患外科治療学(2)		4		
5	胆道疾患診断学		5		
6	胆道疾患外科治療学(1)		6		
7	胆道疾患外科治療学(2)		7		
8	膵疾患診断学		8		
9	膵疾患外科治療学(1)		9		
10	膵疾患外科治療学(2)		10		
11	消化器外科診断治療学総括		11		
12	試験、評価		12		
13			13		
14			14		
15			15		

講義担当者承認

Ⓢ

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード		専攻分野	外科学(消化器・一般外科)	
講義題目	消化器・一般外科 手術スキル実習 (1)		必修/選択	必修
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1単位(3ヶ月・7、8、9月)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	消化器一般外科手術の専門手術手技を実習する。			
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。			
達成目標	上部消化管・一般外科解剖の理解と低難度から高難度の手術手技理解。			
教科書・参考書	新臨床外科学(医学書院、2006、第4版)			
準備学習(予習・復習・時間)	予習:参考資料に目を通しておく。復習:配布資料を使い各自復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終実技試験			
講 義 内 容				
前後期(回)	内 容	(出席 <sup>Ⓢ</sup> )		内 容
1	腹壁外科手術手技実習	1		
2	食道癌手術手技ビデオ研修	2		
3	開胸開腹食道癌手術手技実習(1)	3		
4	開胸開腹食道癌手術手技実習(2)	4		
5	胃癌幽門側胃切除手術ビデオ研修	5		
6	胃癌胃全摘術ビデオ研修	6		
7	胃癌手術手技スキル実習(1)	7		
8	胃癌手術手技スキル実習(2)	8		
9	腹腔鏡補助下胃癌手術ビデオ研修	9		
10	腹腔鏡補助下幽門側胃切除術手術実習	10		
11	手術手技総括	11		
12	試験、評価	12		
13		13		
14		14		
15		15		

講義担当者承認 印

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード		専攻分野	外科学(消化器・一般外科)	
講義題目	消化器・一般外科 手術スキル実習 (2)		必修/選択	必修
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1単位(3ヶ月・10、11、12月)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	下部消化管外科、脾臓・後腹膜臓器の専門手術手技を実習する。			
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。			
達成目標	下部消化管外科解剖の理解と低難度から高難度の手術手技理解。			
教科書・参考書	大腸外科の最前線(永井書店)			
準備学習(予習・復習・時間)	予習:参考資料に目を通しておく。復習:配布資料を使い各自復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終実技試験			
講義内容				
前後期(回)	内 容 (出席◎)		内 容	
1	結腸癌切除術手術手技ビデオ研修		1	
2	直腸癌切除術手術手技ビデオ研修		2	
3	右結腸切除術手術手技実習		3	
4	横行結腸切除術手術手技実習		4	
5	左結腸切除術手術手技実習		5	
6	S状結腸切除術手術手技実習		6	
7	高位前方切除術手術手技実習		7	
8	低位前方切除術手術手技実習		8	
9	直腸切断術手術手技実習		9	
10	後腹膜臓器手術手技実習		10	
11	手術手技総括		11	
12	試験、評価		12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認



学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード		専攻分野	外科学(消化器・一般外科)	
講義題目	消化器・一般外科 手術スキル実習 (3)		必修/選択	必修
担当教員	大坪毅人	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1単位(3ヶ月・1、2、3月)	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	肝胆膵外科手術の専門手術手技を実習する。			
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。			
達成目標	肝胆膵外科解剖の理解と低難度から高難度の肝胆膵外科手術手技の理解。			
教科書・参考書	肝臓外科、胆道外科、膵外科の要点と盲点(文光堂、2002)			
準備学習(予習・復習・時間)	予習:参考資料に目を通しておく。復習:配布資料を使い各自復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終実技試験			
講義内容				
前後期(回)	内 容	(出席◎)		内 容
1	肝切除手術手技ビデオ研修		1	
2	胆道手術手技ビデオ研修		2	
3	膵手術手技ビデオ研修		3	
4	腹腔鏡下胆嚢摘出術手術手技実習(1)		4	
5	腹腔鏡下胆嚢摘出術手術手技実習(2)		5	
6	肝癌肝垂区域、区域切除手術手技実習		6	
7	肝癌肝葉切除手術手技実習		7	
8	胆管癌拡大葉切除手術手技実習		8	
9	膵頭十二指腸切除手技実習(1)		9	
10	膵頭十二指腸切除手技実習(2)		10	
11	手術手技総括		11	
12	試験、評価		12	
13			13	
14			14	
15			15	

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード		専攻分野	外科学
講義題目	疼痛コントロール		必修/選択 選択
担当教員	月川 賢	担当教員連絡先	内線 3213
単位数	1単位(前期1)	履修年次	1年・2年
テーマと目的	疼痛緩和ケアの臨床。		
講義計画	疼痛ケアに関する臨床基礎知識の学習と疼痛ケア一回診とカンファレンス、そして、学内外講師による講義。		
達成目標	疼痛ケアの EBM を学習し習熟する。		
教科書・参考書	がん疼痛緩和ケア Q&A—効果的な薬物治療・QOL の向上をめざして(じほう出版)		
準備学習(予習・復習・時間)	予習:参考資料に目を通しておく。復習:配布資料を使い各自復習を行う。 1時間		
成績評価法	出席、総合討論、発表		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容	(出席 <sup>◎</sup> )	後期(回) 内 容
1	がん疼痛緩和ケア概論		1
2	末期がん医療の実際		2
3	WHO 方式がん疼痛治療法		3
4	がん患者の治療に伴う副作用の軽減と症状コントロール		4
5	疼痛患者の精神的サポート		5
6	がん告知における医療サポート		6
7	疼痛緩和と消炎鎮痛剤		7
8	疼痛緩和におけるオピオイド製剤の役割		8
9	疼痛緩和におけるオピオイド製剤の適正使用法		9
10	疼痛緩和における地域医療連携室の役割		10
11	在宅・緩和病棟の役割とホスピスへのコーディネート		11
12	疼痛に伴う精神症状の臨床		12
13	オピオイド製剤の副作用対策		13
14	がん疼痛緩和ケア総括		14
15	発表、討論、評価		15

講義担当者承認



学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード		専攻分野	外科学
講義題目	Nutrition Support クリニカルラーニング		必修/選択 選択
担当教員	民上真也	担当教員連絡先	内線 3213
単位数	1単位(前期1)	履修年次	1年・2年
テーマと目的	Nutrition support の最新の EBM の学習。		
講義計画	Nutrition support team の回診と学内外の専門講師による講義。		
達成目標	Nutrition support の最新知見を習熟し、臨床にて実践できることを目標とする。		
教科書・参考書	標準外科学(医学書院)		
準備学習(予習・復習・時間)	予習:参考資料に目を通しておく。復習:配布資料を使い各自復習を行う。 1時間		
成績評価法	出席、講義内での発表の評価、試験		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席 <sup>Ⓞ</sup> )	後期(回) 内 容
1	Nutrition support 総論		1
2	褥瘡治療・予防における NST 活動とその効果		2
3	周術期管理における NST 活動		3
4	身体機能回復に対する NST 活動の有用性		4
5	救急医療と NST		5
6	Intensive insulin therapy "IIT"の臨床成績		6
7	Immunonutrients の作用機序、臨床効果		7
8	栄養ケアにおけるベッドサイドのモニタリング		8
9	静脈・経腸栄養法のモニタリングのポイント		9
10	栄養管理実施加算について		10
11	絶食患者におけるビタミン非添加末梢静脈栄養時の血中水溶性ビタミン濃度の変化		11
12	NST のアウトカム評価		12
13	感染対策としての NST 活動の意義		13
14	呼吸障害に対する NST 活動とその効果		14
15	総括、試験		15

講義担当者承認



学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード		専攻分野	外科学
講義題目	Infection Control Team Conference		必修/選択 選択
担当教員	榎本武治	担当教員連絡先	内線 3213
単位数	1単位(前期1)	履修年次	1年・2年
テーマと目的	Surgical site infection コントロール全般にわたる最新の EBM の学習。		
講義計画	Surgical site infection コントロールチーム回診カンファレンスと学内外講師による講義。		
達成目標	Surgical site infection コントロール全般の EBM を学習し習熟する。		
教科書・参考書	別途指示		
準備学習(予習・復習・時間)	予習:参考資料に目を通しておく。復習:配布資料を使い各自復習を行う。 1時間		
成績評価法	出席、総合討論、発表		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回) 内 容
1	SSI 総論		1
2	耐性菌対策に向けた周術期抗菌薬使用		2
3	Surgical site infection (SSI) に対する創縁保護用ドレープの有用性		3
4	『食道癌切除術症例に対する術前 immunonutrition に関する検討』		4
5	術後感染減少を目指した胃癌手術における材料と手技の工夫		5
6	術後感染対策としての免疫増強栄養法術前投与の重要性		6
7	大腸癌手術における創縁保護具(wound retractor)の SSI 予防効果		7
8	下部消化管穿孔術後の重症感染症の検討		8
9	尾側膵切除術における予防的抗生剤投与に関する検討		9
10	『胆道再建術後、肝切除術を試行した症例の SSI に関する検討』		10
11	予防的抗菌薬術前術中投与法による胃癌手術の SSI		11
12	開心術後に生じた縦隔洞炎の治療と起因菌について		12
13	肺全摘術後膿胸への対処法		13
14	SSI 総括		14
15	試験、評価		15

講義担当者承認 (印)